



## 大野市教育委員会たより

令和元年6月6日発行 第2号

発行 大野市教育委員会教育総務課  
〒912-0086 大野市天神町 1-1  
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110  
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：5月30日(木) 午後7時～午後9時	次第	・教育長挨拶
場所：陽明中学校多目的室		・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：陽明中学校保護者(出席者数9人)		・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎今日集まりが少ないのは、教育環境の現状といってもピンときていないのが現状なのかと感じている。興味を持ってもらうのはこれからだと思うが、中学校の保護者にとってみたら、再編が来年、再来年の話ではないため、うちの子の時は関係ないと感じている。具体的な計画が出てくれば、反対や賛成の意見を考えるとと思う。どんな計画が出ても堂々めぐりになる場合がある。陽明でさえ、野球部やサッカー部の人数が揃わなくなっており、ソフトも昨年廃部になった。部活が昔に比べてどんどん減っていて寂しさがある。有終西では各学年が1クラスで6年間一緒にいいこともあるが、トラブルがあった時にクラス替えができない。複式が悪いとは思わないが、もう少し大きい規模の方がいいと思う。

◎クラス替えはなくてもいい。姉が鹿谷(勝山市)にいて、学校に児童が10人ほどしかいないらしいが、すごく密な関係を持っていて。嫌なこと、嫌な子がいると逃げられないこともあるが、卒業の時は良かったとまとまる。コミュニケーション能力が必要なら、どんな人ともとれることが必要。クラスに嫌な子がいるからクラス替えすればいいという考えはどうかと思うので、少人数のクラスを希望する。

⇒ ◎上庄や和泉のように、9年間同じコミュニティであれば、結びつきは強いと感じる。

⇒ ◎良い面もあれば悪い面もある。大きい学校では取り残される場合がある。小さいクラスなら協力して教えてあげることができ、結びつきや先生の目が行き届くことにより、救われる場合がある。

■何人ぐらいが理想と思うか。

⇒ ◎30人1クラスが理想と思っていたが、20人ぐらいで3クラスがいいと思っている。ある程度、小さいコミュニティの方がうまくいくと思う。

⇒ ◎学級編制基準は1クラス最大40人までである。その40人を勝手に10人で4クラスを作っても教員の配置がしてもらえない。ちなみに福井県は、小学校は1年生から4年生までは1クラス最大35人、5・6年生は最大36人、中学校は1年生は1クラス最大30人、2・3年生は最大32人で学級編制をしている。

◎教師の数は足りているのか。足りていないから中学校を5校から1校にするのか。

⇒ ■足りていないからではない。将来の子ども数を予想し計画した。子どもたちの教育環境が良くなるために、クラスは何人ぐらいがいいか、学年は何クラスぐらいがいいかという考えで計画している。

⇒ ◎再編すると遠い子たちはどのように通うのか、想像がつかない。また、比べる学校がないというの

はどうかと思う。子どもが卓球部に入っていて、開成を意識しながらやっている気がする。

⇒ ◎たくさんいるから競争するというものでもない。半分から下になると競争をあきらめてしまう場合がある。逆に30人ぐらいの小規模の方が、明確な競争相手が出来るという考えもある。たくさんいるといろんな個性の人間が集まってくるので、その子たちと触れ合う価値の方が大きいということもある。

◎以前、学校再編に関わらせていただいたが、その時と課題は変わっていない。財政ありきで物事を考えるのは反対であるが、再編は必要であると考えている。

◎中学校の再編は、部活が出来ないから人を集めないといけないというふうに聞こえた。部活をするためではなく、教育を受けるためにやるんだという考えが必要。通学に時間差ができ、結局、部活が出来ないこともある。和泉は通学に時間がかかり、部活ができなくなり、部活をするために住所を移さないといけない、そのようにつながっていくこともある。今の生活で教育をきちんと受けられる環境を行政は整備していかないとけない。平等に教育を受けられることに主眼を置いてほしい。西校にも子どもがいるが、1クラス20人ぐらいが、子どもも先生に見てもらっているという安心感がある。再編に反対ではない。現状に合わせて考えて変えていかなければならない。

◎小学校の間は、地域との結びつきが大事であると感じている。中学校はある程度、人数の多い方が競争し合えたり、いろいろな先生と関われるのでいいかと思う。校舎が使えなくなるから再編なのか。

⇒ ■校舎を長く持たせるような工事は可能である。既存校舎を使うこととなれば、そのような方法も検討していくことになる。

⇒ ◎中学校を1校にするとクラスがたくさん必要になる。既存の校舎では無理かと思う。ゆくゆくは人口が減っていくので、今の校舎を使っていけばいいと思う。

◎陽明の吹奏楽のコンサートに行ったが、吹奏楽部の人数が減り、前まであった楽器がなくなっていたので寂しい感じがした。教育の中で部活動がすべてではないと思う。中学校1校になると競争相手がいなくなると言っていたが、県内に競争相手がいるので、競う相手がなくなる訳ではないと思う。なるべく早く、再編して、修繕経費などの管理経費を他の教育に充ててほしい。

◎地域が衰退するので、少人数でも今の学校のままでいいと思う。

◎今の規模で考えると、中学校2校、小学校4校が適当でないかと思う。中学校は既存の陽明、開成を、小学校も既存の学校を当面使う。通学範囲を考えると小学校において心配な面はある。複式を持つ学校がいくつかあり、地域が衰退するから残して欲しいという考えがあるだろう。しかし、その学校において、何人になるまで残すんですかとなった時に、ゼロまでとなると最後に卒業する子どもの教育環境を考えると可哀想である。なるべく早く再編を進め、その後、様子を見て対応を考えるべきではないかと思う。



◎大野市は借金が多いが、これ以上増やすとますます苦しいのではないか。

⇒ ■市では全部の会計で毎年25億円弱の借金を返済している。基金は減少傾向にあるが、県内では借金は少ない方である。毎年支払わなければならない固定費である経常経費(※1)の割合が95%を超え、弾力性がない状況となっている。

⇒ ◎学校を新しく建てたら、税金があがるのではないかと心配している。

※1：行政サービスを維持していくために毎年決まって必要とする経費。人件費や物件費、維持補修経費、扶助費など。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。